

オガサワラカワラヒワの概要

1. 種名 (学名)

スズメ目アトリ科カワラヒワ

亜種オガサワラカワラヒワ

(*Chloris sinica kittlitzii*)



2. 環境省レッドリストランク

絶滅危惧 I A 類 (CR) 2020

3. 種の特徴

全長 13cm。亜種カワラヒワ(*C.s.minor*) に似るが、オスはより鮮やかな色彩をしている。亜種カワラヒワより体重、翼長、尾長ともにやや小さいが、嘴が相対的に大きい。種子食で、低木林・草地・農耕地など、地上でも樹上でも採食を行う。動物質はほとんど食べない。4～6月に主に乾性低木林に営巣し繁殖する。

4. 分布域

東京都小笠原村父島列島、母島列島及び火山列島。うち近年確実に生息が確認されているのは母島列島の母島、母島属島(平島、向島、姉島、妹島、姪島)と火山列島の南硫黄島のみ。その他は他島産個体が稀に飛来する程度。

5. 存続を脅かす要因

外来捕食者(ノネコ、ドブネズミ、クマネズミ)による成鳥、若鳥、卵等の捕食、食物資源を巡るネズミ類との競合、外来植物の繁茂等による生息地の減少、雛の餌の供給源となる乾性低木林の減少、台風や干ばつによる一時的な食物不足等

6. その他

- ・分布域は、南硫黄島原生自然環境保全地域、小笠原国立公園、国指定小笠原群島鳥獣保護区、国指定北硫黄島鳥獣保護区に指定されている。また、小笠原諸島は世界自然遺産地域として登録。
- ・林野庁では森林生態系の適切な保全・管理のため、オガサワラカワラヒワを対象とした巡視やセンサーカメラによるモニタリングを実施しているが、観察数は激減している。
- ・また、関係機関・関係団体が連携し、2020年2月から6月まで向島の繁殖地においてドブネズミ対策のためかご罠による捕獲や殺鼠剤散布による駆除を実施した。その後、環境省事業による向島でのドブネズミ対策が実施されている。
- ・本種の飼育下繁殖は行われていない。
- ・外来種であるモクマオウ林に営巣するため、同林の伐採については慎重に行う必要がある。
- ・母島属島で4-6月に繁殖し、6-10月に母島に移動するが、冬期の移動先は不明。

※上記の内容はいずれも令和3年3月時点